

Offshore

1998/No.259

目次	1 頁	執行部報告	7 頁	専門委員会報告
	7 頁	各支部お知らせ	8 頁	事務局通信

執行部報告

1998年度第2回総会議事録

1. 日 時 平成10年5月24日(日)
13:10~16:30
2. 場 所 東京都港区虎ノ門1-1-24
第1オカモトヤビル 4F会議室
3. 出席者 会員4,008名中有効出席者1,008名
(出席) 川久保史朗ほか56名
(内 代議員20名)
委任状 951名
4. 議題
(1)1997年度事業報告及び収支決算報告
(2)1998年度事業計画及び収支予算報告
(3)新理事・監事及び主要役員の選任報告
(4)JYAとの統合に関する基本合意と今後の統合交渉の実施について
(5)その他報告
5. 議事
(1)加藤常務理事の司会により開会、1998年度第2回総会は会員4,008名中有効出席者1,008名で本総会の成立を確認した。戸田会長が議長となり、議事録署名人に川久保史朗会員(三崎支部)、和田二郎会員(北海道支部)を指名した。
(2)議事については議題(4)「JYAとの統合に関する基本合意と今後の統合交渉の実施について」を代議員会と合同で開催(採決は別個)審議することについて全員の賛成を得た。〈審議決定〉
(3)戸田会長から議題(4)「JYAとの統合に関する基本合意と今後の統合交渉の実施について」の審議に入る前につぎの挨拶があった。
戸田会長挨拶
さる2月21日の第1回代議員会では事業計画等の審議決定をいただいたが、総会は有効出席者数不足で流会となり、早期に総会の開催をする必要があった。4月28日JYAとの統合交

渉で基本合意を得たのでヨットシーズンたけなわで、各位に資料が到着してからの検討時間も少なかったが、無理をお願いして本日の代議員会・総会を開催した。

NORCの財政問題は昨年度で解決したが、懸案のJYAとの関係の解決を図る時機に到達した。本件については合意の内容、これからの進むべき方向、これからの作業状況等を交渉担当者から出席の方々に説明をすることになっている。統合時には外洋部門が独立の型で新内部組織に設置されることになっている。世界的傾向としても各国一つのNAに進んでいる。NORCは近年会員の増加がないが、統合を機として拡大に取り組みたい。本日出席の方々のご意見を伺い、統合を進めたい。

(4)議題(4) JYAとの統合に関する基本合意と今後の統合交渉の実施について本議題の審議は代議員会と合同で実施した。

1)尾島専務説明要旨

- ①日本ヨット界統合準備委員会基本合意書について
○すべてのセーリング
セールを使用するスポーツのすべてを統括するものとする。
- 新組織の発足
1999年4月1日を目標とする。期間は短くても長くても良くない。
- 合意書の発効
本日のNORC総会とJYA評議員会にて審議決定すれば発効となる。
調印は発効後行う。
- ②新組織準備報告書について
○交渉の経緯
昨年2月NORC、JYAトップ会談で開始した。セーリング環境をどう整えるかが問題である。Offshoreには逐次状況を報告した。
- 今後検討すべき問題点
NORC、JYA間では統合時の人員比で理事等を構成することが合意された。統合後のNORC系の発言は留保出来る見通し。
- 外洋本部の設置

OFFSHORE 259号

平成10年6月25日発行(毎月1回25日)

発行 社団法人 日本外洋帆走協会

編集:本部会報小委員会

〒108-0014 東京都港区芝5-15-5 泉ビル4F

電話・東京03(3452)5812

FAX・東京03(3452)5815

ホームページ・http://www.norc.com/

編集制作協力 株式会社 舵 社

1部定価300円(郵送料別)

NORCホームページ会員専用ページの

アクセス方法

NORCホームページのメニューで「会員専用」

をクリックし、半角文字で

(1) ユーザー名にmember.

(2) パスワードにyachtと入力すると、NORC 会員専用のページに入ることができます。

特別加盟団体でなく、新組織の内部組織として設置される。

○理事定数

統合すれば融合しなければならない。5年目途で理事数の減少を図ることになっている。

○基金の募集

新組織は財団法人となる。基金を集めることが必要となるだろう。

○今後の統合作業

統合まであと10ヶ月、精力的な作業が必要である。

○統合スケジュール

本年12月臨時総会を開催して解散の決議をする。

③組織骨格図(案)について

○会員管理

外洋本部では艇登録等を管理する。会員管理等は総務本部で実施することになる。

○常任理事会定数

人員比構成とする。

○事務局

統合により人数は縮小になる。

○最高審判委

統合になれば従前の組織間トラブルはなくなる。

④日本セーリング連盟(協会)(案)について

○日本セーリング連盟

仮称である。

○事務所

JYAの事務所地とする。同じ部屋に入る。

○目的

セーリングスポーツはヨット競技だけでなく幅広くとらえる生涯スポーツとする。海事思想の発展・普及…運輸省の所管事項である。

○事業

セーリングに必要な技術 NORCは充実した

ナイトセーリングの必需品!

夜間の安全航行を守る抜群の明瞭度、解析度そして増幅度。



米国ITT社が開発・製造し、これまで軍需用に使用されていた「ナイトマリーナ」が日本でも発売。「ナイトマリーナ」は星明りでは300m、満月では620m先まで景色が確認できます。F/1.4光学系の視野角度40°で、ほとんど肉眼に近い視野が得られます。又高い防水・浮水性を要し、軽量でコンパクトな設計で片手の操作にも簡単に出来ます。●NORC会員のみには特別価格を設定しております。

ITT
NIGHT VISION™

光増幅型暗視装置

ナイトビジョンビューアー

ナイトマリーナ

■正規代理店

有限会社 ジュコー商会

横浜市中区太田町6-73 ハマビルディング302

TEL.045(212)5058/FAX.045(212)5139

内容を有している。セーリング規則の統括一
国一NAになれば従前の問題は解決する。泊
地等の推進活動競技以外のセーラーにも便宜
を供するようにする。通信機器の研究等これ
から急速な進展が予想される。

2)高田常務説明要旨

○JYAとの統合交渉は20年来のもので、NORC
・JYAとも内部事情があり、交渉内容はオープ
ンにしていなかったが、Offshore 243号(1996
年1月)には今迄の統合交渉の経緯、統合の理
由等についての記述があり、現在の統合交渉の
考え方は、ここに原点がある。

○従前の交渉はNA問題を中心としたが、この
問題は一般会員にあまり関係のないことで、現
在の交渉のポイントは

- ・一つの新しい組織を創設する
 - ・NORC系に必要な予算と事業が保障される。
 - ・新しい組織の発展が期待できる。
- ものでなければ統合の必要性がない。

○統合後もNORCの支部は存続することで了解
されている。NORC本部は新組織ではJYAの現
組織の県連、艇種別協会とは全く異なる内部組
織である外洋本部として継続する。

但し、すでにNORC支部でもJYAの県連組織
と複合存在となっているところは、NORC支部
が県連と統合することもあり得るだろう。
NORCの事業活動の中心は支部、フリートで行
って来たが、現時点はクラブに移行しているこ
とに留意しなければならない。

○会費については、本部会費をとってみると、
本年1月から特別会員、正会員とも年6,000円に
なった。支部会費額は支部で決め徴集すること
になっている。JYAは年4,500円である。学生
中心のこともあり、統合により若干の値上げを
検討中のようなが、年6,000円とすることは現
実的に無理で、統合後の共通会費は年6,000未
満となる予定である。

現在セールナンバーに対する登録料と艇の計
測料を会員からいただいているが、これは外洋
本部の収入とすることで了解されている。

○統合後の新組織は財団法人を予定してい
る。JYAは財団法人であるが、これは法人設立
経緯から、オリンピック・国体の強化費を受け
皿とし易い団体が財団法人であったことによ
る。基金は500万円であり、実質的には社団法人
と同じく会費収入を中心としており、統合後
も同じ形態をとらざるを得ない。また、社団法人
と財団法人の統合は統合時の財産処分からみ
ても財団法人を選択することになる。

○NORCは新組織の財団法人への統合のため解
散することになる。しかし、NORCの実体的な
内容は新組織に継続されることになっており、
NORCの解散手続はNORCが無くなるのではな
く、新組織に移行する手段として理解していた
きたい。

○若し万一今秋に会員の方々から、新組織へ移
行のためのNORCの解散が承認されるとき
は、今後は別の改革が必要になろう。例えば、
現在の会費では、日本財団から補助金を受けて
新規事業を開始する受け皿となる独立のNORC
予算をねん出することが出来ない状況にあり、
活性化を図るには、結局は会費の値上げの検討
が必要となろう。

また、組織のあり方も、支部母体がフリート中
心であるところから、クラブをどのように定款、
組織運営規程の中で取り込むかを検討しなけれ
ばなくなるだろう。さらに、JYAとの関係
では現在タナ上げのNA問題の解決交渉が必要
になる。

○今回の統合交渉では、NORC・JYAとも相互
理解が深まっている。先般NORCの代議員会に
はJYA貝道理事長が出席し、その後のJYAの評
議員会にはNORCの尾島専務が出席した。さら
に4月下旬、統合合意直前には、NORC及び
JYAの各一部委員が合同で運輸省、文部省の担
当課へ挨拶、説明を行い、官側の基本的な了解
も得ている。

○統合の時期は来年4月1日を目途にしている。
統合作業は大作業であり、仮に1年延期すれば
これから2年間は新規事業の検討が実質的にス
トップしてしまうことになる。また、理事の任
期からも交代のない来年は責任をもって対応で
きる。

3)意見表明、質疑応答

松本明雄 (西内海支部)

○私はNORC会員歴26年で、JYA会員にもな
っており両協会の実態を承知している。NORCは
次の点から統合することはないと考える。

・JYAのレースは団体に籍を置いて出場する
が、NORCのレースは個人単位であり、統合し
てもレース内容は別個である。

・JYAのレースはブイをまわるゲーム型である
のに対し、NORCは島をまわるような型のいわ
ゆるレースである。

・JYA会員は学生中心で卒業すればほとんどが
退会する。NORC会員は入会すれば長期間会員
で在籍する。

JYA役員は通常現役でないが、NORC役員は現
役である。

・NORCが財務で苦しいならば、NORCの主た
る会員の特別会員が応分の負担をすればよい。

・NORCは会員増の体制整備を図るよりレース
中心の魅力のある事業を発展させることの方が
先決である。(沖縄レースの再開等)

戸田会長

○御説は理解できる。私も学生時代はJYAの会
員で、学連の役員をしたこともある。

○私は会員の増加、例えば学生時代の小型艇会
員を、社会人になると大型艇会員として引き留
め、セーリングを一生続けることが出来るよう
な環境を整備することが必要である。

古川副会長

○NORCとJYAは個性が異なるが、個性の異な
る団体の統合もあって良いと思っている。

○グアムレースを本年度再開するよう目下検討
中であり、来年度以降は小笠原レース、沖縄レ
ース等ロングオフショアレースを再開し、NORC
のアイデンティティを確かなものとした。

土井悦 (東京湾支部)

○私は第二次世界大戦中から戦後にかけて学生
で、JYAに入会し、ディンギーに乗っていたが、
NORCには任意団体設立から入会して現在に至
っている。

○NORCとJYAの統合は歓迎であり、学生、社
会人、高年令者の間一つの組織の会員で継続出
来ることが適当である。

○今回の合意書等について若干の意見を述べる。
・新組織は学会のような閉鎖的な会ではなく、会
員以外の者に対しても保険等で恩恵があるよう
にした方がよい。

・新組織の目的はセーリングスポーツになって
いるが、セーリングをスポーツと捉えないセー
ラーもあり、スポーツマンシップをもったセー
ラーの集団として捉えることが適当である。

・海事思想の発展普及についてはその進め方に
ついて配慮が必要である。

・従前オフショアヨットの洋上通信には、世界
中のアマチュア無線の人々のお世話になった。
今後は新しい通信手段による円滑な通信が望ま
れる。

・私はヨット、モーターボートの遭難状況につ
いて調査・研究をしているが、大洋横断レース
には10艇に1人ぐらい気象予報士程度の気象解
析の出来る人が参加することが必要であると思
っている。不幸にして事故が起きたときは、損
害額を査定出来るサーバーヤーをNORCの中で
持つことが必要である。

大儀見薫 (三浦支部)

○本日の代議員会・総会で審議決定する事項の
内容を明確に説明してほしい。仮にイエスであ
ったとしても、これからの軌道修正は可能であ
るのかも説明してほしい。

○JYAとの統合にあたって、NORCの今迄の精
神と実績が継承されるかどうかを聞きたい。

○一国一NAの趨勢にあるということだが、小
型艇レース組織と外洋レース組織の一本化は世
界的にみて上手くいっていない。ISAFとORC
も共通事項は共同処置するがその他の事項は住
み別けをしている。

高田常務

○大儀見氏には、数日前お会いして説明したが、
今回の審議決定要請は、今迄の交渉と今後の進
展についての可否である。軌道修正は可能であ
る。統合にあたってNORCの精神、実績は継承
されなければならないと考えている。

○今後の交渉においてNORCの希望する事業と
予算が確保されないことが判明すれば統合は中
止になる。

○会員の方々の了解が得られれば、定款による
解散総会を年末に開催することになると思われ
るが、若し、統合が中止となったときも、支部
フリート体制からクラブ取り込みのための定款
改正がいずれも早い時期に浮上することになる
と思う。

川崎貢 (大洗支部)

○JYAとの統合に賛成する。

○大洗支部はJYA県連とコンタクトがある。

○ヨット界のため小異を捨てて大道につくこと
が大切である。

名和幸夫 (三浦支部)

○JYAとの統合しない場合においても、定款を
改正しなければならない必要があることにつ
いて説明がされていない。

○松本明雄氏が述べたように社団法人のNORC
と財団法人のJYAは団体の内容が本質的に異な
っており統合になじまない。私は統合に反対で
ある。

高田常務

○名和氏からののはじめの質問については、本日
の議題とは別の事項なので、バックグラウンド

の話としてのみ理解願いたい。

戸田会長

○財団法人と社団法人の個性的な相異については承知している。新組織を財団法人とすることは各種利害得失を考えて選んだものである。

○統合により財団法人になることは手続的なものと理解願いたい。財団法人を継承する場合であっても、法人名称、目的、事業内容が改めるのであれば、新しい団体と評価されるものである。

堀口三備 (湘南支部)

○JYAとの統合問題は、20年の交渉経過を経てこのたび最善の合意に達した。細かい問題はこれから解決すればよい。

○このたびの合意について賛成する。

大坪明 (湘南支部)

○本日の代議員会、総会で何を審議決定するのかははっきりしてほしい。

坂谷定生 (東海支部)

○東海支部の多数の会員はNORCの名称が統合後も残ることを希望している。NORCの名称が残れないときは退会する会員も出て来る情勢である。

○本日の審議決定は、今迄の交渉と今後の進展の可否であると解し、仮に可としたときでも、新組織準備報告書4項の今後の検討事項が不適当なものと判断されるとき(NORC系理事数、基本規則の改正要件2/3等の内容)は次の解散総会で改めて可否を決定することとなると解して良いか。

尾島専務

○本日審議決定していただく内容は、会議資料(日本ヨット界統合準備委員会基本合意書)について、今迄の交渉と今後の進展の可否である。

○可と審議決定いただいたときは、個々の問題についてプロジェクトチームをつくり、検討を進めることになる。

○前述の合意書はNORC・JYAの委員の合意であり、可否は本日の代議員会、総会で決定されるものである。

高田常務

○統合新組織は財団法人であることが前提である。

○日本セーリング連盟(協会)(案)第1条から第4条は相当議論して合意に達したものである。この内容が大きく変わることは考えられない。

○今後の検討留意事項の理事数等は坂谷氏の意見と私も同じである。具体的には言えないが、理事数等についてもある種の合意を得ている。

中村寛 (三浦支部)

○最近三浦支部においてはこの種の問題の会合に会員が集らないが、これは現執行部への批判と無関心層の拡大によるものであり、この現状に対する執行部の考えをお聞きしたい。

○このような状況下でJYAとの統合問題が出て来たのは、NORCの組織力が弱体化したので大きい組織に加わりたということなのか。○私はJYAの会員でもあり、学生時代関東学院で役員をしていた。NORCとJYAとは体質は異なっている。

○関東支部が4分割され、未だ混沌とした時期でNORCのビジョン、アイデンティティがはっきりしていない状況下にある。

JYAとの統合は必ずしも将来的に反対するものではないが、今やるべきことは基礎固め、組織固めではなかろうか。それが出来てからJYAとの統合を進めるべきである。

○混沌とした状態で自分達のことが考えられないような組織の状況下でのJYAとの統合はなかなかものか。一部の人間の覇権主義や野心で一般会員を巻き込むことは危険であると考えている。

○今回委任状を無効で出した30~40人の方に電話したところ、NORCがどうなっていくかの判断は現状では無理である。時間がほしいということであり、シーボニアの会員はおしなべてこの意見であった。

尾島専務

○私は1968年NORCにレース目的で入会した。何となくNORCに入会していれば良いことがあるのではないかという期待感によるものであった。

○かつて会員増を図るためレース振興をしたが依然減少傾向は続いた。レース期待感だけでは会員の減少傾向は止められない。NORCのアイデンティティを確立して外洋に出ていく会員のためのバックアップをする団体として再構築しなければならないと思っている。レース以外の活動をする会員をどうやって増加させることが出来るかを考えたい。

古川副会長

○4月25日広島に高田常務と赴き、西内海、玄海の会員の方々にJYAとの統合問題について説明をしたが、その際は積極的賛成もなかったが、反対もなかった。

○JYAとの統合問題については次の世代の人々がどのようにすれば楽しくレースが出来るようになるかの点から考えてもらいたい。

白崎謙太郎 (三浦支部)

○NORCの勢力が落ちたのは、アイデンティティが曖昧になったことによる。大切な事項を単純化して交渉してもらいたい。

○ここに至ったことについては、旧執行部の方々の責任である。本件についてoffshoreには自己批判が掲載されていない。

○基本的方向はわかるが、検討期間1年は短い。○日本ヨット協会60年史は私が執筆した。NORCはJYAとは本質が異なっている。融合することは難しいだろう。

戸田会長

○無理して融合することはない(自然体で進む)

○NORCの今後のアイデンティティは支部、フリートでつくってほしい。本部はルール、対官庁や諸団体との交渉等で支援をする。

○統合までの期間は今の計画で良いと思う。期間を延ばしても良くならない。時の方が早く過ぎていく。決定を延ばす今の政府の対応と同じである。

○今の状態では未加盟組織の加盟説得、例えば宮城帆走協会等をNORCへ加盟を説得する事は難しい。

大儀見薫 (三浦支部)

○一国一NAの組織となることについて、今回

の審議決定は解散総会に至る具体的交渉の承認で、条件が満たされないときはその時点で否はあり得るのか。

○統合後もNORC40年の実績がアイデンティティとして残ることが保障されるのか。

戸田会長

○貴意のとおりである。

○NORCは外洋本部として存続する。

○NORCの今迄の実績の権利、活動の基本は継続されなければならない。

富田稔 (三崎支部)

○過去の執行部の批判より、会員は今後のNORCの方向性について述べるべきである。

○執行部の提案に反対ならば、対案を提出したらどうか。

○私は執行部の提案に賛成である。

高田常務

○今回のJYAとの統合合意が成立しないとき、NORCの組織体制が自壊するということはない。

稲葉文則 (湘南支部)

○外洋レースを遂行するかどうかは艇長判断である。

○JYAとの統合についても、将来的に成功すると思うならば会員は賛成すべきである。

以上をもって総会と代議員会の合同審議を終了した。

改めて総会の採決を行うことになり、前記議題に関し、これまでの統合に関する交渉経緯と今後の具体的交渉を可とするかどうかに関し挙手による採決を求めたところつぎのとおりとなった。

可	出席者	51名
	委任状	914名
	合計	965名
否	出席者	4名
	委任状	37名
	合計	41名
保留	出席者	1名
	議長 出席者	1名

〈審議決定〉

(5)議題

- 1)1997年度事業報告及び収支決算報告
- 2)1998年度事業計画及び収支予算報告
- 3)新理事・監事及び主要役員の選任報告
- 4)その他報告

上記4項の議題については、加藤常務理事が1997年度第2回代議員会及び1998年度第1回代議員会の審議決定状況その他理事会における担務理事、専門委員長同委員の決定状況等について概要を報告した。

他に質疑意見等はなく、以上で審議を終了し、1998年度第2回総会を終えた。

上記議事録に誤りのないことを証明し、記名押印する。

平成10年5月24日

議長 戸田 邦司

署名人 川久保史朗

署名人 和田 二郎

1998年度第2回代議員会議事録要旨

- 1.日時 平成10年5月24日(日)
13:00~16:10
- 2.場所 東京都港区虎ノ門1-1-24
第1オカモトヤビル4F会議室
- 3.出席者 代議員141名中有効出席者88名
(出席) 加藤直治 米原守 安木邦貴 関恭一郎 方栄世
林岳彦 鳥山陸郎 佐藤勝 大儀見薫 高野克己 横沢眞則
大坪明 大野健作 白井義博 坂谷定生 妹尾達樹 小田泰義
立川敏章 村瀬保文 野田福美 以上20名
(委任状) 68名

4.議題

- (1)JYAとの統合に関する基本合意と今後の統合交渉の実施について
(2)その他

5.議事

(1)加藤常務理事の司会により開会、1998年度第2回代議員会は代議員141名中有効出席者88名で本代議員会の成立を確認した。戸田会長が議長となり、議事録署名人に白井義博、坂谷定生両代議員を指名した。

(2)戸田会長から議題(1)「JYAとの統合に関する基本合意と今後の統合交渉の実施について」の審議に入る前につぎの挨拶があった。
戸田会長挨拶

さる2月21日の第1回代議員会では事業計画等の審議決定をいただいたが、総会是有効出席者数不足で流会となり、早期に総会の開催をする必要があった。4月28日JYAとの統合交渉で基本合意を得たのでシーズンたけなわで、各位に資料が到着してからの検討時間も少なかったが、無理をお願いして本日の代議員会・総会を開催した。

NORCの財政問題は昨年度で解決したが、懸案のJYAとの関係の解決を図る時機に到達した。本件については合意の内容、これからの進むべき方向、これからの作業状況等を交渉担当者から出席の方々

内部組織に設置されることになっている。

世界的傾向としても各国一つのNAに進んでいる。NORCは近年会員の増加がないが、統合を機として拡大に取り組みたい。本日出席の方々のご意見を伺い、統合を進めたい。

(3)議題(2)その他

議事録署名人の指名に引き続き「JYAとの統合に関する基本合意と今後の統合交渉の実施について」について1998年度第2回総会への附議を提案した。

本議題を総会に附議する件については出席代議員全員の賛成を得た。なお、上記議題の審議については総会と合同で開催(採決は別個)することについても全員の賛成を得た。

<審議決定>

(4)議題(1)JYAとの統合に関する基本合意と今後の統合交渉の実施について

本議題の審議は総会と合同で実施した。

以下、質疑応答は総会議事録と同じ

以上をもって代議員会と総会の合同審議を終了した。改めて代議員会の採決を行うことになり、前記議題に関し、これまでの統合に関する交渉経緯と今後の具体的な交渉を可とするかどうかに関し、挙手による採決を求めたところ、出席代議員全員の賛成を得た。

<審議決定>

他に質疑意見等はなく、以上で審議を終了し、1998年度第2回代議員会を終えた。上記議事録に誤りのないことを証明し、記名押印する。

平成10年5月24日

議長 戸田 邦司

署名人 白井 義博

署名人 坂谷 定生

1998年度第7回理事会議事録要旨

- 1.日時 平成10年6月15日(月) 18:30
- 2.場所 社団法人 日本外洋帆走協会本部会議室
- 3.出席者 理事30名中 有効出席者28名
(出席) 古川保夫 尾島裕太郎 加藤正義 高田尚之 平賀威 以上5名
(書面表決) 23名
- 4.議題

(1)JYAとの統合に関し、今後の具体的な作業方策、スケジュール等について

(書面表決事項 日本ヨット界統合準備委員会の下部組織として統合に関し検討を行う 4小委員会のNORC側メンバーの賛否)

(2) 第8回日本グアムヨットレースの後援の承認について

(書面表決事項 社団法人 日本外洋帆走協会の後援の賛否)

(3) '98ケンウッドカップナショナルチームの編成について

(書面表決事項 ナショナルチームのメンバーの賛否)

5.書面表決状況

1998年6月15日(月) 18:30古川保夫、尾島裕太郎、加藤正義、高田尚之、平賀威がNORC会議室に集合し、出席者以外の書面表決書23通をチェックしたところ、有効出席者28名で、本理事会の成立を確認した。

戸田邦司会長の事前指名により古川保夫副会長が議長となり、議事録署名人は尾島裕太郎、高田尚之が指名された。本日出席した5名の理事はそれぞれ書面表決書を提出した。書面表決状況は以下のとおりであった。

- (1) 議題(1)、(2)、(3) 賛成者24名
(2) 議題(1)反対、(2)賛成、(3)記入無し 1名
(3)議題(1)反対、(2)(3)賛成 1名
(4)議題(1)(3)賛成、(2)記入無し 2名

よって議題(1)、(2)、(3)ともに賛成議決し、1998年度第7回理事会を終えた。

上記議事録に誤りのないことを証明し、署名押印する。

議長 古川 保夫

署名人 尾島裕太郎

署名人 高田 尚之

1998年度NORC主要役職者担当

会長 戸田 邦司
副会長 古川 保夫
副会長 三井 祥功
専務理事 尾島裕太郎
常務理事 加藤 正義
常務理事 高田 尚之
ORC COUNCIL 戸田 邦司

委員 山本 高靖 渡辺 康夫
富田 稔 河内 道夫
国際部会
担務理事 今北 文夫
委員長 富田 稔
委員 大橋 且典 鈴木 一行 高橋 太郎 林 賢之輔
浪川 宏 川端 治夫 猪上 忠彦 大儀見 薫

専門委員会名 **担務理事** **委員長** **副委員長**
(小委員会部会)
総務委員会 尾島裕太郎 尾島裕太郎 高田 尚之
会報小委員会 服部 一良 服部 一良
財務委員会 鈴木 保夫 鈴木 保夫
保険小委員会 平賀 威 平賀 威 堀口 三備
政策委員会 尾島裕太郎 尾島裕太郎
国際部会 今北 文夫 富田 稔
JYA部会 尾島裕太郎 尾島裕太郎
海事思想 野口 隆司 大川 和好
普及委員会 野口 隆司 浪川 宏
安全委員会 野口 隆司 大橋 且典
計測委員会 山本 高靖 林 賢之輔
技術委員会 山本 高靖 池田 栄宏
走委員会 池田 栄宏
クルージング 野口 隆司 和久井喜治郎
委員会
ルール委員会 榛葉 克也 榛葉 克也 石井 正行 大村 雅
一通信委員会 大谷 正彦 大谷 正彦 渡辺 龍彦
法制委員会 渡辺 康夫 渡辺 康夫
泊地対策委員会 渡辺 康夫 渡辺 康夫
構造改革部会 欠
D・H特別委員長 秋田 博正

JYA部会
担務理事 尾島裕太郎
委員長(理事) 尾島裕太郎
委員(理事) 古川 保夫 加藤 正義 高田 尚之 鈴木 保夫
児玉 萬平
委員 都築 勝利

海事思想普及委員会

担務理事 野口 隆司
委員長 大川 和好
委員 日高 敏郎 長谷川富延

安全委員会

担務理事 野口 隆司
委員長 浪川 宏
委員 長江 博人 松浦 剛
16支部各安全委員長又は支部長指名の安全委員(1名)
通知のあった支部氏名

福田 義一(東京湾) 榎田 敏雄(三崎) 長坂 収(東海)
上羽 正男(近北) 五十川純一(西内海) 吉田 義則(沖縄)
伊藤 耕磁(内海) 羽柴 宏次(三浦) 大河原雅之(湘南)

計測委員会

担務理事 山本 高靖
委員長 大橋 且典
副委員長 久嶋 滋
委員 沢地 繁 鈴木 利夫 斉藤 晴雄 高橋 太郎
野崎 輝夫 山田 裕治 大矢 隆 田中康一郎
栗林 裕之 田中 治久 識名 朝典 相元 孝博
河口 秀夫

技術委員会

担務理事 山本 高靖
委員長 林 賢之輔
委員(理事) 今北 文夫
委員 大橋 且典 沢地 繁 高橋 太郎
東島 和幸 角 晴彦 伊佐馬 克 増山 豊
中村 隆彦 矢嶋 滋 豊田 哲郎 蘭 信雄

帆走委員会

担務理事 池田 栄宏
委員長(理事) 池田 栄宏
委員 大野 稔久 山中 昭弘
16支部各帆走委員長又は支部長の指名の帆走委員(1名)
通知のあった支部氏名

斎藤 晴彦(東京湾) 大島 茂樹(東海) 磯田 康夫(近北)
金井 寿雄(西内海) 仲間 健二(沖縄) 小林 昇(内海)
羽柴 宏次(三浦) 沼田 尚文(湘南)

クルージング委員会

担務理事 野口 隆司
委員長 和久井喜治郎
委員 16支部各クルージング委員長又は支部長指名のクルージング委員(1名)
通知のあった支部氏名
吉田 裕至(東京湾) 吹原 優二(東海) 山下 文徳(西内海)
高良 英明(沖縄) 門田 久志(内海)

各専門委員会委員長名簿**総務委員会**

担務理事 尾島裕太郎
委員長(理事) 尾島裕太郎
副委員長(理事) 高田 尚之
委員(理事) 加藤 正義 鈴木 保夫 服部 一良 馬場 益弘
委員(支部長) 16全支部長
委員 横山 勝重 大野 健作 寺澤 寿一 関 恭一郎
山田 克弘 浪川 宏

会報小委員会

担務理事 服部 一良
委員長(理事) 服部 一良
委員(理事) 尾島裕太郎 加藤 正義 高田 尚之 竹内 聡一
委員 黒瀬 功 富田 稔 浪川 宏 横山 勝重
寺澤 寿一 西 啓 大坪 明

財務委員会

担務理事 鈴木 保夫
委員長(理事) 鈴木 保夫
委員(理事) 平賀 威 小田 泰義
委員 西 信介 板倉 英明 仲栄間一幸 堀口 三備

保険小委員会

担務理事 平賀 威
委員長(理事) 平賀 威
副委員長 堀口 三備
委員(理事) 尾島裕太郎
委員 新田 肇 大島 茂樹

政策委員会

担務理事 尾島裕太郎
委員長(理事) 尾島裕太郎
委員(理事) 今北 文夫 大谷 正彦 加藤 正義 鈴木 保夫
高田 尚之 野口 隆司 服部 一良 平賀 威

1998年度NORC主要役職者担務(つづき)

ルール委員会

担務理事	榛葉 克也			
委員長(理事)	榛葉 克也			
副委員長	石井 正行	大村雅一		
委員	平松 栄一	大儀見 薫	周東 英卿	松崎 義郎
	村松哲太郎	山崎 理人	三宅 智久	都築 勝利
	秋山 裕夫	石田 光勝	高江洲正春	濱永 裕

通信委員会

担務理事(理事)	大谷 正彦			
委員長(理事)	大谷 正彦			
副委員長	渡辺 龍彦			
委員	池内 貞二	横沢 真則	浦部 紘一	内藤 恒夫
	川久保四朗	榊原 秋元	森井 幸治	小林 勝海
	桃原 秀明	住吉 建夫	後藤 賢治	

法制委員会

担務理事	渡辺 康夫			
委員長(理事)	渡辺 康夫			
委員(理事)	今北 文夫	大谷 正彦	加藤 正義	平賀 威
	渡辺 行彦			
委員	伊藤 望	林 賢之輔		

泊地対策委員会

担務理事	渡辺 康夫		
委員長(理事)	渡辺 康夫		
委員(理事)	加藤 正義	坂谷 定生	
委員	犬塚 英	尾口 一幸	

D・H特別委員会

委員長	秋田 博正
委員	都築 勝利

年会費納入のお願い

本年度の年会費納入はお済みですか？

会費は会運営の源泉として不可欠です。ご多忙のためお忘れかと存じますが、早めに所属する支部へご納入のほどお願いします。

1998ケンウッドカップ情報

ナショナルチーム
決定!!

2年に一度、ハワイで開催されるケンウッドカップ。今年は8月3日から始まるが、それに先立ち、NORC本部帆走委員会・国際部会は、去る7月6日、帝国ホテルにおいて、ケンウッドカップ出場艇の壮行会を催した。

ナショナルチームは、アオバエクスプレス・カラス・マリオエクスプレス、(リザーブ艇：夢ひょうたん)の3艇。戸田会長、古川副会長ならびに集った40数名のセーラーで、参加する選手を激励した。

エントリーリスト (1998. 6.15現在)

CLASS-A

BEAU GESTE	FARR49	USA
CASSIOPEIA	DAVIDSON72	USA
FLASH GORDON 3	FARR49	USA
INFINITY	N/M50IOR	CAN
LEARJET	N/M50	JPN
RAGAMUFFIN	FARR50	AUS
STARLIGHT EXPRESS	DAVIDSON55	NZL
YUME HYOTAN	N/M68	JPN

CLASS-B(ONE DESIGN 48)

ABRACADABRA		USA
AMERICA TRUE		USA
ILLBRUCK PINTA		GER
STARLIGHT		USA
WINDQUEST		USA
G-SHOCK NIPPON CHALLENGE		JPN

CLASS-C

AIN'T MISBEHAVIN'	LAVRANOS47	RSA
AOBA EXPRESS	ILC46	JPN
ABN AMRO CHALLENGE	SYDNEY46	AUS
BIG APPLE III	FARR45	NZL
QUEST	N/M46	AUS

CLASS-D

BLUE CHIP II	FARR40	USA
G'NET	FARRILC40	NZL
KARASU	J/V43	JPN
MARIO EXPRESS	FARR40	JPN
WHITE CLOUD	FARR39	NZL
ZAMBONI	FARR40	USA

CLASS-E

DESPERADO	LIDGARD36	JPN
JUBILEE	IMX38	USA
LIBERTE' EXPRES'	FARR40	JPN
SANTA RED	MUMM36	JPN
URBAN RENEWAL	J-35	JPN

NATIONAL TEAMS

AUSTRALIA:

ABN AMRO CHALLENGE
QUEST
RAGAMUFFIN

JAPAN:

AOBA EXPRESS
KARASU
MARIO EXPRESS
YUME HYOTAN (RESERVE)

NEW ZEALAND:

BIG APPLE III
G'NET
WHITE CLOUD
STARLIGHT EXPRESS (RESERVE)

U.S.RED:

FLASH GORDON 3
BEAU GESTE
ZAMBONI

U.S.WHITE:

BLUE CHIP II
CASSIOPEIA
JUBILEE



帝国ホテルでの壮行会

専門委員会報告

クルージング委員会

ヨットランデブーのお知らせ

内海支部 支部長 小田泰義
内海支部クルージング委員長 門田久志

向暑の候、皆様には益々ご清栄の事とお慶び申し上げます。

皆様はある時は、各業界の先達者としてビジネスに専念され、また、ある時は、ヨットレーサーとして各地を転戦されておられることと思います。

さて、下記の予定で恒例のランデブーを行います、この行事は当時の瀬戸内のセーリング同好諸先輩と日本外洋帆走協会が30数年前に合併するより前から行われて来た、内海支部の最も伝統ある行事です、恐らく日本外洋帆走協会内海支部としては、今回が最後のランデブーとなるでしょう。海友をお誘いの上、海路、陸路を問わず、皆様の参加を歓迎いたします。

湾岸各地の夜空を彩る花火をバックに軽快にバンド演奏を聞きながら、ジョッキを傾けて良き夏の一夜をお過ごしいただけるよう、ヨットランデブーによるサマーパーティーの提案を委員会からの暑中お見舞いとさせていただきます。

主催 (社)日本外洋帆走協会内海支部
共催 新西宮ヨットハーバー(株)
(社)関西ヨットクラブ

期日 平成10年7月25日(土)～26日(日)

会場 新西宮ヨットハーバー

内容 野外屋台パーティー
25日(土)17:00～
マリンウィーク・体験クルージング

26日(日)0900～1200・1300～1600

参加費 芦屋市・西宮市・尼崎市の子供会 200名

係留地 3,000円/1名

新西宮ヨットハーバー:ビジターパス
イベントの前後一週間は係留できます、事前に事務局宛入港予定日時をお知らせ下さい

申込先 NORC内海支部

西宮市西宮浜4-16-1

関西ヨットクラブ内

TEL&FAX 0798-37-3102

オーナー各位へのお願い、関西ヨットクラブの行事「マリンウィーク体験クルージング」に未来を託すちびっ子ヨットマンのために当委員会も参加いたしますので、皆様にご賛同戴きたく多くのご参加をお願いいたします

各支部お知らせ

第1回相模湾ヨットフェスティバル1998実施要項

ヨットレースの後はジャズ演奏で♪ まりゆく夏を楽しんで

1. 主催 相模湾ヨットフェスティバル実行委員会

共催 ABYC(油壺ベイヨットクラブ),
AYC(油壺ヨットクラブ),
MYOC(諸磯ヨットオーナーズクラブ),
SLYC(ソルティライフヨットクラブ)

後援 社団法人 日本外洋帆走協会三崎支部

2. コース:

佐島沖-名島沖マーク(反時計)-江ノ島沖マーク(反時計)-佐島沖(フィニッシュ) 約10～15マイルの予定
(レース当日の風向によりウェザーマーク有り)

3. スタート:

1998年8月30日(日) 予定時刻 10:30 IMS クラス 佐島沖
" 10:40 CR クラス "
" 10:50 PHRFクラス "

タイムリミット:同日15:00までにフィニッシュできなかった艇はDNFとする。

4. 出場資格

各クラス共船舶安全法に基づく検査済の艇。
レース期間中有効なヨット保険(賠償、搭乗者)に加入している艇(艇長会議での加入可能)。但し、以下のクラス参加条件をみたしていること。

: IMSクラス

有効な1998年版のIMS計測証書を有し、IMSレギュレーションズ1998のレーシングまたはクルーザー/レーサーのディビジョンを満足しているLOA 7.5m以上の艇。ディビジョンの分類はIMS証書に記載されていること。アコモデーションノンファイルドの艇には、IMSレギュレーションズ1998は1章と2章のみ適用する。

: CRクラス

CR Ver7.0レーティング以降の有効な計測証書を有する艇。

: PHRFクラス

98IMSCR Ver7.0レーティング未取得艇でLOA7.5m以上の艇。

: ノンレーティング

レース委員会が決定するレーティング(PHRF数値)に従う艇。セールナンバー無の艇はレース委員会指定のリコールナンバーフラッグをつける事。
(保証金3,000円、艇長会議時に配布、納付のこと)

※IMS既登録艇はCRクラス及びPHRFクラスへのエントリーは認められない。

CR Ver7.0(CR98)既登録艇はPHRFクラスへのエントリーは認められない。

CR Ver6.0(CR95)は証書期限切れのためPHRFクラスへのエントリーです。

5. 適用規則 '98IMS '98CR RRS 1997～2000 実施要項 帆走指示書
(IMSルールブックはレース中艇内に積むこと。)

6. クラス識別リボン(艇長会議時に配布する)

IMSクラス=ピンク

CRクラス=ブルー

PHRFクラス=イエロー

7. 参加申込締め切り (FAXのみ、レイトエントリーは認めません)

1998年8月20日(木) 17:00 期限厳守

FAX. NO 042-565-0266

所定の参加申込書に8. の振込済用紙を添付してFAXすること。

8. 参加費

1艇12,000円(振込のみ) 振込み料金は負担してください。
上記参加費には2名分のパーティー参加費が含まれています。

追加1名1,000円にて艇長会議時に受け付けます。

東海銀行 大井町支店 普通 1059583

NORC三崎支部 レース口(ぐち)

締め切り 1998年8月20日(木) 17:00期限厳守

振込名はセールナンバー、艇名のみ

セールナンバー無の艇は艇名、オーナー名で振り込み

*7. の参加用紙と8. の振込みをもってエントリーとする。

9. 出艇申告用紙、レーティング証書、保険証書の扱い

1998年8月26日(水) 艇長会議時に提出のこと。

*レーティング証書は8月20日(木) 現在のものを有効とします。

8月21日以降の変更、証書発行は今レースでは無効としPHRFクラスでのエントリーとなります。

10. 艇長会議

1998年8月26日(水) 受付1830～1900 艇長会議19:00～20:00

交通ビル 港区新橋5-15-5

電話 03-3437-6733

艇長会議に欠席の艇はレース参加不可とする。(時間厳守)

当日での参加費の受付はしません パーティ費の追加のみです。

11. パーティ

1998年8月30日(日) 油壺ベイヨットクラブ 17:00～

会費1名1,000円(前売り状況により当日券はないときもあります)

生バンド(スタンダードジャズ)の演奏あり。

12. 相模湾フェスティバル実行委員会

実行委員長 高村 宏 (AYC)

レース委員長 高原 俊弥 (MOYC)

副実行委員長 和久井喜治郎 (ABYC)

会計 市原 恭夫 (SLYC)

近北だより

ASAHI SUPER DRY
YACHT FESTIVAL
1998成績表

1998.5.24 琵琶湖

★クラスⅠ (54艇)

総合 順位	SAIL NO.	艇名	艇種
1	5445	KONAWIND	J/V-40
2	5367	SOUTHERN	COMFORT YAM-31SLTD
3	4780	BOWGA	YAM-31SLTD
4	4305	J-ONE	FARR-40
5	4940	Siesta 2	YAM-FES31

★クラスⅡ (42艇)

総合 順位	SAIL NO.	艇名	艇種
1	693	モデラート	YAM-23Ⅱ
2	4923	TOMOHIRO	YAM-23ⅡEX
3	5576	GONTA ら	YAM-FES24
4	3752	CREEK V	TAK-1/8
5	561	De ja vu	YAM-26S

★クラスⅢ (11艇)

総合 順位	SAIL NO.	艇名	艇種
1	2239	PECKER Ⅱ	FARR-727
2	5719	BUDDHA Ⅰ	YAM-25Ⅱ
3	5268	ANDANTE	YAM-30CRS
4	608	ANNA	NOL-30
5	4015	PAVO	PAIO-10

★クラスⅣ (12艇)

総合 順位	SAIL NO.	艇名	艇種
1	5426	Pure	YAM-21S
2	3956	MARIE	YAM-21C
3	4697	O-CUBE	YAM-21C
4	2565	JOKERⅣ	YAM-21S
5	3925	Lady Cat	YAM-21S

★クラスⅤ (7艇)

総合 順位	SAIL NO.	艇名	艇種
1	5538	ENDLESS LOVE	SUN/B-33
2	510	eve	N-300T
3	637	AQUAMARINE	TREC-42
4	630	North-7	YAM21-C/B
5	734	Ka・Ma 2	CC-24

事務局通信

海上保安庁水路部ホームページ好評

海上保安庁水路部は昨年9月から水路通報と日本航行警報をインターネットでも提供を始め、管区水路通報のインターネットによる提供も今年4月1日から全管区に広がった。利用者のアクセスはうなぎ登りで、特に全管区に広がった4月には急増した。アクセスした人に対するアンケートでも「いつでも情報が得られて便利」など好評で、回答者の96%は今後も利用したいと期待している。

海上保安庁は、港湾工事による海岸線や水深の変化など海図への最新情報を印刷物の水路通報として毎週金曜日に発行。また、灯台消灯、海底火山の活動、航行障害となる漂流物などの緊急情報の日本航行警報を無線で毎日2回提供している。

この2つを昨年9月12日からインターネットでも提供を始めた。管区水路通報も二管が昨年4月から提供を始めたのを皮切りに他管区も順次始め、今年4月に全管区が網羅された。

これでユーザーは全国各地の航海の安全に関する最新情報を「いつでもどこからでも」入手できることになった。特に水路通報はこれまで配布先が限られており、プレジャーボート関係者などは利用しにくかったが、インターネットによる提供でだれでも利用できるようになった。

水路通報へのアクセスは昨年9月の提供開始以来、毎月ほぼ1,000件台で推移してきたが、4月には1,500件を超える急

増ぶり。管区水路通報へのアクセスは増え続けており、特に3月の1,821件に対し4月は2,751件と1.5倍の増加。全国網羅により利用しやすくなったためと見られる。アンケートに対する有効回答は9月12日から5月10日までに307通。

42%がプレジャーボート愛好者で、船舶の大きさでも5トン未満が37%。アクセス場所も自宅が63%を占めており、これまで水路通報などを利用していなかった人が利用したことが分かる。利用した感想では「早い」が23%、「いつでも情報が得られる」が45%、「どこからでも情報が得られる」19%と好評。半面、「遅い」「文字が見えにくい」などの不満もあった。

情報量については「多すぎるからもっと簡単に」という意見と、プレジャーボート向けに「わかりやすく地図を入れて」と相反する要望があり、プロとアマのニーズの違いが出ている。書き方については「公文書そのまま」「専門用語でむずかしい」など厳しい注文もあった。変わったところでは、神奈川県の高校国語教員が授業に役立つものはないかと探していて、水路部ホームページに行き着き、大変興味をひいたので同僚の地学の教員に教えたいという感想があった。

水路部ホームページのアドレスは

<http://www.jhd.go.jp/>

(出典：海上保安新聞)

最新刊

実戦ヨットレース・ルール解説
1997~2000

ブライアン・ウイリス 著／石井正行 訳
B5判／96頁／定価 本体1,900円(税別)

大幅な改訂が行われた新ルール解説の決定版。ヨットレースにおけるさまざまなシチュエーションを想定し、この場面では“君はどうすればいいか”という点に的を絞って、豊富なイラストと簡潔な文章で解説。

KAZI BOOKS

舵社流通課

直通 TEL.03-3434-4531 FAX.03-3434-2640



編・集・後・記

☆毎年のように異常気象がやってきますが、今年の特徴は、1月の大雪、6月中旬からの夏本番と、ちょうど季節が1ヶ月進んでいるようです。さて8月末には秋がくるのか？！

☆今号も硬い記事が大半を占めます。でも内容は岐路に立つNORCの今後を選択する、いや選択した重要な議事録です。JYAとの組織統合反対の意見も、その数も、当然ですがしっかりと掲載しています。ぜひお読みください。

☆各支部、各専門委員会からの情報が不足です。取材の要員がいないのでお寄せ頂くしか方法がありません。ご協力ください。

(H)